

## 議会報告会報告書

令和8年5月1日

尾張旭市議会議長 殿

委員会名 福祉文教委員会  
委員長名 櫻井直樹

議会報告会実施要綱第8条第1項の規定により、次のとおり報告します。

開催日時	令和8年4月26日（日） 午前10時00分～午前11時30分
開催場所	尾張旭市中央公民館302会議室
出席議員	秋田さとし、芦原美佳子、勝股修二、さかえ章演、榊原利宏、櫻井直樹 陣矢幸司、若杉たかし （見学：大島もえ、丸山幸子、山下幹雄）
参加人数	54人
実施内容	<p>報告テーマ：「どうなる？どうする？中学校部活動」 報告者：福祉文教委員長 櫻井直樹 下記内容を報告した。</p> <p><b>1 議会による政策提言（尾張旭市議会初の試み）</b> 令和7年10月、市議会から市（教育長）へ「中学校の休日部活動の指導者確保」について、6項目を提言した。 <b>指導員の確保</b>：地域や企業と連携した人材確保 <b>教員の支援</b>：希望する教員が負担なく兼業・指導できる環境整備 <b>財源・体制</b>：部活動指導員への報酬検討及び複数人による指導 <b>研修</b>：多様な活動に対応できる指導者の育成</p> <p><b>2 休日部活動の「地域クラブ活動」への移行</b> 国の方針により、令和8年（2026年）8月に休日部活動は廃止され、9月から「地域クラブ活動」に変わる。 <b>運営</b>：当面は、市教育委員会主体の組織が運営 <b>単位</b>：「学校単位」から「市単位（1種目1クラブ）」へ <b>費用</b>：月額3,000円程度の参加費負担を導入 <b>場所・時間</b>：原則中学校の施設を利用し、休日1日3時間程度</p> <p><b>3 意見交換会のポイント</b> ①学校から部活動がなくなることについて ②休日部活動が地域クラブ活動に変わることによる影響について ③平日部活動の存続について</p> <p>意見交換会は、中学校部活動の運営に関して、議員が質問に答える会ではなく、市民の皆様から意見を聴く会であることを伝え、3グループ（1グループに議員2名配置）に分かれ、意見交換会を行った。</p>
主な意見・提言等	別紙参照

## 意見交換会 A グループの意見

- 平日と休日のバランスをとって、平等に練習量を確保してもらいたい。
- 剣道部の保護者から、休日にある大会・試合はどのようになっていくか。顧問がいない。外部コーチが引き継いだら、昨年は外部コーチの帯同ではダメだったが、今年からはよくなった。
- 名古屋市では、外部コーチを集めるのを1つの会社が担っている。
- 学校単位で大会に出られるようにしてほしい。
  - →モチベーションにつながる(学校へのプライド)
  - →地域移行したクラブに入りたがらない。
- 詳細が決まらないことには、地域移行に申し込めない。
- 参加料の内訳を明確にしてもらいたい(熱中症対策等は含まれるのかなど)。
- 今決まっていないからこそ、流動的に皆さんの意見を求めているのではないか。子供を中心に考えてもらいたい。
- 中学校の部活動は、なくさないでほしい。広いサポートをしてほしい。
- 顧問と外部講師との連携をしっかりと取ってもらい、選手の選抜や指導方法をしっかりとやってほしい。参加費の支払い方法、送迎、怪我をしたときなど、どこが対応するのか考えてほしい。
- 東中の箏曲部等を文化協会としても、若い子たちに伝えていきたいが、接点がない。
- 外部組織と連携を取るよう促してほしい。
- アンケートなどで子供の意見をしっかりと聴いてほしい。
- 剣道部など平日もなくなってしまう部があるが、大会に出るときに学校の名を背負って出場できるか考えてほしい。
- 現在廃部になろうとしている部はどのくらいあるか、公開してほしい。

## 意見交換会 B グループの意見

- 子供たちが何も知らない状況下で、市が勝手に進め、決めてしまっている。
- 曖昧な説明が多く、子供たちが納得できていない。
- 学校からの通知がよく分からない(西中は4/14付けで具体的な内容の通知が来たものの、詳細がよく分からない)
- 一方通行の通知のみ。
- 前からスムーズに移行できる様、取り組んでほしかった。
- 西中ではバスケット部がなくなると聞いている。クラブチームに行くことなく、辞める選択をせざるを得ない。他に移ることもできず、せめて、今入っている子供だけでも最後まで面倒を見てほしかった。
- 先生たちも説明できない状況(3月の時点で分からないと)。大会に出られるかどうか分からず、モチベーションが下がる。思春期の子供にとって心、体への影響が大きい。
- 現在行っている部活については、先生がよいというのなら継続してもよいのではないか。
- 今後の部活の変化に不安があり、今までのよかったと感じている保護者が大半。地域移行を喜んでいる保護者はいない。
- やりたい先生の意味をないがしろにされている。働き方改革のためかもしれないが、先生の裁量も認めてほしい。
- 競技によっては、合同練習が難しい種目もあるので、学校単位での活動も認める等、幅を広げてほしい。
- 部活をやりたい教員も実際にいる。現場の先生の声をもっと聴いてほしい。

- 合同になった際には、子供の特性を知らない先生が担当することもある。子供が困惑することもあるのではと不安に思う(先生に人前で怒鳴られたり、叫ばれたりするときの戸惑いなど)。
- 土日学校教育の一環として見てもらえるのか。合同になった活動は何を目的とするのか。
- 現在、部活の練習量が減少し(平日17時まで)、他の強豪校に勝てるのか。
- これまでは、中学生になると興味がある部活動を気軽に始めることができたが、その機会がなくなることが不安
- 学校施設で場所を提供していただければ、保護者の自己責任の下、学校を使用させていただき、先生の負担を軽減した上で、取り組める部活もあるのではないかと。
- 元教員としての意見だが、生徒が熱心であるほど、朝練や練習試合のニーズが高まり、子供たちの想いに応じてあげたいとの思いはあるが、教員への負担は大きくなる。最近、教員のなり手が不足しており、ある程度の歯止めは必要であり、仕方がないと感じている。一方で、転換期である今、保護者も職員もよく分かっていないのは残念。過去には練習試合中に教員が亡くなった事例があり、公務災害としては認められなかった。今、一番の問題は、子供も職員もよく分かっていない状況で混乱を招いていること。
- 保護者から練習強化を教員に相談したところ、「部活はボランティア。残業手当もつかず、先生も部活動をやりたいが、家庭のこともあり日数を増やせない。」と言われ、先生ももがいている状況。子供たちは部活を楽しみにしており、活動のみならず友達や先輩とのつながり、人とのつながりが大切
- やりたい部活があっても、指導者不足で募集がない。高校は、部活動が強い高校に進学したり、スポーツ推薦を希望することはできるのか。地域移行後の練習レベルで進学後には、レギュラーになれるのか。子供から将来への不安の声が聞こえる。
- 無償で行われてきたことは、改善すべきかもしれないが、やる気がある先生や生徒の想いを認めてほしい。週末に先生が変わるとやりづらい。意欲のある先生・生徒の意向をもっと尊重してほしい。練習時間は柔軟な対応を。
- 部活は国の方針によるのではなく、尾張旭市として予算を取り、学校専属できてもらう人材を確保し、そこに先生に入ってもらおう。
- 地域移行について、学校によって発信が異なる。教育委員会は学校現場の声を聴いていないのではないかと。各校ごとの声をしっかり聴いた上で、情報発信すべき。しっかりと予算を取らなければ、先生のボランティアに頼ることになる。
- 先生がやりたいと言っている現状があるのに、応援しないのか。WBCの選手の応援は市を上げて行おうが、部活の練習はするなと言っている。

## 意見交換会Cグループの意見

- 国や県から部活動地域展開の方針が出たが、市の動きがあやふや。保護者からどんどん意見を言うべき。平日の学校部活動も週3回しかない。スポーツ庁の文書は、分かりにくい。
- 地域移行を主軸にする考え方
  - ・ 熊本市の事例：市は、このように動いているのか。
  - ・ 市議会、教育委員会とタイアップして進めてほしい。
  - ・ 西中のソフトボールと卓球が、平日の部活動も打ち切られると書面の紙一枚で通知さ

れた（部活動を担当する教員、担い手がいない）。

- ・部活動の廃止を決定するのは、校長権限か。教育委員会は、認めているのか。
- ・子供のことが考えられていない。教師の働き方改革ばかりで。
- ・民間企業、小学校教員から指導者を集められないのか。

○ 中学校部活動に対する皆さんの考え方は

- ・部活動で子供は成長するので、今のまま続けて。
- ・中2の娘は、吹奏楽部でコンクールを目指しているが、どうなるのか不安のまま。子供も先生も、部活動がどうなるのか分からない不安の中で練習している。（旭中）
- ・教職員は、手当もなく顧問をやっているが、自分だったらできない。
- ・部活動がなくなっていくのは、この御時世やむを得ないと思うが、しかし、私の場合、部活動で絆を作り、今でも当時の仲間との付き合いがある。
- ・土日の部活動で、3千円払う子は試合に出られるが、平日だけの子は試合に出られないと聞く。
- ・3千円は、もう決定したのか。
- ・部活動では、試合に勝っても負けても良い経験になる。部活動では、できれば教職員が顧問になり、子供に接するようにしてほしい。外部コーチでは、どのような方なのか分からない。できれば信頼している教職員が顧問になってほしい。
- ・一つの部活動の指導者は、複数確保してほしい。同じ人で長年続けるのは、弊害も出るため、適切に変わってほしい。
- ・地域展開したときに、教員と他の指導員とのパワーバランスはどうなるのか。指導方針や考え方が異なるケースがある。
- ・子供のことを中心に考えるべきだが、教師も同じ人間。しかし、大人の事情で子供の居場所がなくなることになる。子供に寄り添ってほしい。
- ・本日、西中の部活動についての一文を理由に、この場に参加した。子供がかわいそうだ。部活動がないと、子供たちがたむろしている。
- ・昔、素行の悪い子供は、ラグビー部に入れられて更生していった。部活動は、大切な場所
- ・西中のバスケットボール部は、今年度新規募集をしていない。子供が、残念がっている。保護者は、どのように子供に説明すればいいのか。財源や人材確保など、難しいことはあるが、変えられる側の子供が主体になっていない。子供が納得する方向になるようにしてほしい。
- ・元教員で、運動部の顧問をしてきた。西中の一文中、部活動が突然なくなるのはひどい。部活動は、保護者の要求から少しずれるとクレームになる。要求に全て応えられない。子供のためにと辛抱強く顧問を続けている教師が圧倒的
- ・地域展開の部活動がどういうものか知りたくて参加した。これまでの部活動とは、かけ離れたものになるのではないか。レギュラーと補欠の平等性など。
- ・尾張旭市は、健康都市でジュニアのトップアスリートを年に一人は輩出している。紅茶だけではなく、このことも打ち出して盛り上げてほしい。
- ・市のスポーツ協会は、どのように関わっていくのか。
- ・夏休み等、長期休暇の間の部活動をどうするのか。

## 意見交換会のまとめ

中学校部活動について、参加者の皆様からたくさんの意見を頂いた。これらの貴重な意見は、市教育委員会に伝えるとともに、中学校部活動について、子供たちに寄り添ったかたちとなるよう、市議会として取り組んでいきたい。